



17 後藤良 朝霞開宿霧

大正四年（一九一五） 木彫彩色
一八・八×二〇・一×六七・三

一点

豊かな髪を高く髷に結び上げた古代装束姿の女性像で、物憂げな表情がとらえられている。優美な曲線とともに豊かな量感をもつ木彫作品である。題名の「朝霞開宿霧」は、朝霞が立ちこめた夜霧（宿霧）を吹き払う、との意であろうが、その典拠は明らかでない。本作は後藤良（一八八二〜一九五七）が大正四年の第九回文展に初めて出品し、褒状を受賞した作品である。後藤はこの後、同九年第二回帝展出品の「梨花夫人」が特選、翌年にやはり特選を得た「宓妃」、大正十三年出品の「梅妃」な

ど、東洋の女性像を主題とした作品を次々に発表して、帝展での評価を確実なものとした。これらの制作について「唐美人の衣裳には特に注意して三越などであれこれ注文をつけて作らせた」註…モデルに着せる衣裳のことか」とその回顧録で述べている（『目黒不動仁王尊の出来るまで』昭和三十六年）。

後藤は、明治期に活躍した彫刻家、後藤貞行の次男である。東京美術学校で木彫を学んだ後、日本美術協会美術展覧会などで作品を発表。大正三年から再び東京美術学校で塑造を学び、その後は文展、帝展を中心に活躍した。大正末頃からは能楽に惹かれるようになり、昭和十三年には能の美の表現を目的とした「能美会」を結成、以降能楽を主題とした作品を中心に制作した。伝統的な木彫を手がけた、この時期を代表する木彫家の一人である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections